2019 年度　白梅学園大学 授業評価アンケート結果

2019 年度 FD 委員会

本学では教育の質向上を目的とした点検評価活動の一環として、授業評価アンケートを2002 年度（大学は 2005 年度）から実施してまいりました。FD 委員会では昨今の大学教育における質保証体制の更なる充実やアカウンタビリティの履行といった社会的要請を受け、本年度よりアンケート項目のみならず、実施方法や対象授業に至るまで、これまでの授業評価のあり方を抜本的に見直す作業に着手いたしました。

以下、本年度の授業評価アンケートの概要および分析結果についてご報告いたします。

１．授業評価の実施主体

白梅学園大学・短期大学　ＦＤ委員会

２．授業アンケート評価の実施方法

（１）授業アンケートの実施と結果分析

調査の実施および集計は白梅学園大学・短期大学教務課が行う。なお、結果分析については、FD 委員会が実施する。

（２）授業アンケートの実施方法

ア．実施回数および方法

年度内に 2 回（前期と後期)、ウェブ上（学生ポータルサイト）にて行う。なお、これまでアンケートは任意回答としてきたが、より多くの受講生の声を拾うべく、今年度より回答必須とした（ただし、無記名式は従前の通りである)。

イ．対象授業科目

全科目について実施（通年科目、実習指導関係の授業、ゼミを含む)。

ウ．実施時期

実施期間は 3 週間、授業時間内に 10 分程度の時間をとって実施した。前後期の実施期間・回答率は以下の通りである。

	実施期間	回答率
前期	2019 年 7 月 8 日（月）～7 月 27 日（土）	70.0%
後期	2020 年 1 月 6 日（月）～1 月 25 日（土）	55.6%

エ．学生への周知

ポータルサイトおよび各学年のゼミナールにて用紙を配布して周知徹底した。

オ．授業評価の結果公開

大学・短大全体の授業評価結果（全科目の総合集計結果）のみを本学ＨＰ上にて公開する。個別集計結果についてはウェブ公開しない。なお、教員各自が担当する科目の集計結果については、集計終了後に各教員に開示した。

３．授業評価アンケートの質問項目（2019 年度版）

（１）学生自身の自己評価

設問１（学習目的）　私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。
設問２（学習態度）　私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ（でいる）。
設問３（内容理解）　私はこの授業の内容を十分に理解することができた。
設問４（総合評価）　私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。

（２）授業担当者に対する評価

設問５（熱意態度）　教員は熱意を持って授業に臨んでいた。
設問６（授業運営）　教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。
設問７（授業方法）　教員の授業方法や使用した教材に創意工夫が感じられた。
設問８（基本項目）　教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。
設問９（学生対応）　教員は学生の質問や相談に適切に対応していた。
設問 10（総合評価）　この授業の教員は総合的に評価して良かった。

（３）授業内容に対する評価

設問 11（授業難易度）この授業は分かりやすかった。
設問 12（授業進度）　この授業の進め方のペースは適切であった。
設問 13（シラバス）　この授業はシラバスに沿って進められていた。
設問 14（教科書等）　この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。
設問 15（授業内容）　この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。
設問 16（総合評価）　この授業は総合的に評価して良い授業であった。

（４）自由記述

設問 17（授業環境）　授業環境について改善点を挙げてください。（例：空調、照明、音響、黒板・プロジェクター等、教室内外の私語・騒音等）
設問 18（授業改善）　この授業をよりよくするために教員はどのような配慮をすればよいと思いますか。

カテゴリー（１）～（３）の回答選択肢は、１：そう思う（5 ポイント）、２：ややそう

思う（4 ポイント）、3：どちらとも言えない（3 ポイント）、4：あまりそう思わない（2 ポイント）、5：全くそう思わない（1 ポイント）の計 5 段階評価とする。

なお、2019 年度後期については設問 17 と 18 を統合し、新たに設問 18「授業内容・方法や授業環境（例：空調、照明、音響、板書・プロジェクター、教室内外の私語・騒音等）について改善点があれば挙げてください。また、この授業をよりよくするために教員はどのような配慮をすればよいと思いますか」とするとともに、設問 17 として「授業内容・方法や学生対応など、この授業で良かった点があれば挙げてください」を新設した。

3．授業評価アンケートの結果報告

（1）質問項目別にみる集計平均値（前後期とも通年科目を含む）

設問番号	質問項目	前期	後期
1	私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4.23	4.09
2	私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ（でいる）。	4.28	4.18
3	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.13	4.06
4	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.24	4.15
5	教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	4.42	4.28
6	教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。	4.17	4.09
7	教員の授業方法や使用した教材に創意工夫が感じられた。	4.20	4.12
8	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.27	4.17
9	教員は学生の質問や相談に適切に対応していた。	4.26	4.14
10	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.26	4.16
11	この授業は分かりやすかった。	4.17	4.07
12	この授業の進め方のペースは適切であった。	4.23	4.10
13	この授業はシラバスに沿って進められていた。	4.28	4.12
14	この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。	4.28	4.16
15	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.34	4.23
16	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.31	4.18

前期は全回答数 8,561 件で回答率は 70.0%、後期は全回答数 6,382 件で回答率は 55.6%という結果であった。前期と比べて後期の回答率が下がった原因としては、前後期とも 3 週間の実施期間を取ったものの、後期実施の第 3 週目には既に授業を終了していた科目が多くあったことが考えられる。次年度の後期については実施期間の再検討が必要である。

以下、各質問項目をカテゴリー別にみていく。（1）学生自身の自己評価（設問 1 ～ 4）については、前後期ともに全ての設問において 4 を上回っているものの、設問 4「私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ」と設問 3「私はこの授業の内容を十分に理解することができた」の数値の乖離が気になるところである。

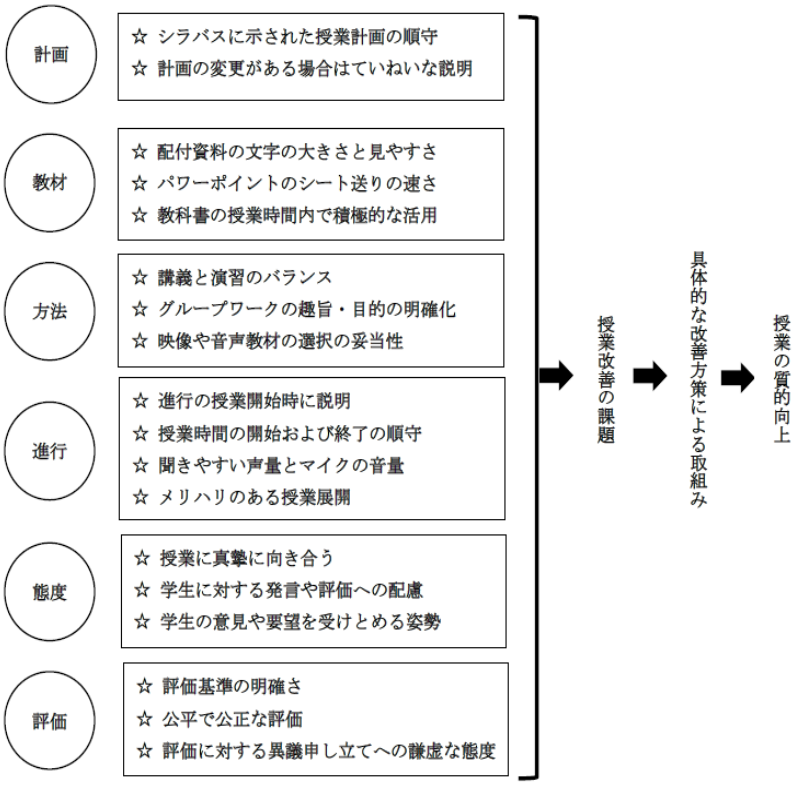
（2）授業担当者に対する評価（設問 5～10）では、設問 10 の総合評価において前期が 4.26、後期が 4.16 とあるように、比較的高い評価と言えるものの、設問 6「教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた」のポイントが他と比べて若干低い。その都度、理解度を確かめながら授業を進めていく工夫、たとえば指名や授業後の確認テストやリアクションペーパーの実施などが今後の改善対策として考えられるだろう。

（3）授業内容に対する評価（設問 11～16）では、設問 16 の総合評価を見ても分かる通り、こちらも比較的高い評価であると言える。他方、設問 11「この授業は分かりやすかった」では前期が 4.17、後期が 4.07 であり、こちらは設問 3 における学生自身の理解度の結果と正の相関にあると考えられることから、分かりやすい授業の工夫は喫緊の課題であると言えよう。

（2）授業改善に向けての今後の課題

今年度は設問項目を一新したこともあり、項目ごとの経年変化を追うことができなかった。今年度、新たな取り組みとして導入した「授業支援メンター制度」や次年度以降に実施を予定している、各教員・科目ごとの授業評価アンケートのフィードバック、さらには右図の PDCA の取り組みを通して、授業の更なる質的向上に取り組んでいく所存である。

本授業アンケートの結果について、ご意見・ご要望等あれば気軽に FD 委員までお寄せいただければ幸いである。



2019 年度　白梅学園短期大学 授業評価アンケート結果

2019 年度 FD 委員会

本学では教育の質向上を目的とした点検評価活動の一環として、授業評価アンケートを2002 年度（大学は 2005 年度）から実施してまいりました。FD 委員会では昨今の大学教育における質保証体制の更なる充実やアカウンタビリティの履行といった社会的要請を受け、本年度よりアンケート項目のみならず、実施方法や対象授業に至るまで、これまでの授業評価のあり方を抜本的に見直す作業に着手いたしました。

以下、本年度の授業評価アンケートの概要および分析結果についてご報告いたします。

１．授業評価の実施主体

白梅学園大学・短期大学　ＦＤ委員会

２．授業アンケート評価の実施方法

（１）授業アンケートの実施と結果分析

調査の実施および集計は白梅学園大学・短期大学教務課が行う。なお、結果分析については、FD 委員会が実施する。

（２）授業アンケートの実施方法

ア．実施回数および方法

年度内に 2 回（前期と後期)、ウェブ上（学生ポータルサイト）にて行う。なお、これまでアンケートは任意回答としてきたが、より多くの受講生の声を拾うべく、今年度より回答必須とした（ただし、無記名式は従前の通りである)。

イ．対象授業科目

全科目について実施（通年科目、実習指導関係の授業、ゼミを含む)。

ウ．実施時期

実施期間は 3 週間、授業時間内に 10 分程度の時間をとって実施した。前後期の実施期間・回答率は以下の通りである。

	実施期間	回答率
前期	2019 年 7 月 8 日（月）～7 月 27 日（土）	76.1%
後期	2020 年 1 月 6 日（月）～1 月 25 日（土）	64.3%

エ．学生への周知

ポータルサイトおよび各学年のゼミナールにて用紙を配布して周知徹底した。

オ．授業評価の結果公開

大学・短大全体の授業評価結果（全科目の総合集計結果）のみを本学ＨＰ上にて公開する。個別集計結果についてはウェブ公開しない。なお、教員各自が担当する科目の集計結果については、集計終了後に各教員に開示した。

３．授業評価アンケートの質問項目（2019 年度版）

（１）学生自身の自己評価

設問１（学習目的）　私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。
設問２（学習態度）　私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ（でいる）。
設問３（内容理解）　私はこの授業の内容を十分に理解することができた。
設問４（総合評価）　私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。

（２）授業担当者に対する評価

設問５（熱意態度）　教員は熱意を持って授業に臨んでいた。
設問６（授業運営）　教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。
設問７（授業方法）　教員の授業方法や使用した教材に創意工夫が感じられた。
設問８（基本項目）　教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。
設問９（学生対応）　教員は学生の質問や相談に適切に対応していた。
設問 10（総合評価）　この授業の教員は総合的に評価して良かった。

（３）授業内容に対する評価

設問 11（授業難易度）この授業は分かりやすかった。
設問 12（授業進度）　この授業の進め方のペースは適切であった。
設問 13（シラバス）　この授業はシラバスに沿って進められていた。
設問 14（教科書等）　この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。
設問 15（授業内容）　この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。
設問 16（総合評価）　この授業は総合的に評価して良い授業であった。

（４）自由記述

設問 17（授業環境）　授業環境について改善点を挙げてください。（例：空調、照明、音響、黒板・プロジェクター等、教室内外の私語・騒音等）
設問 18（授業改善）　この授業をよりよくするために教員はどのような配慮をすればよいと思いますか。

カテゴリー（１）～（３）の回答選択肢は、１：そう思う（5 ポイント）、２：ややそう

思う（4 ポイント）、3：どちらとも言えない（3 ポイント）、4：あまりそう思わない（2 ポイント）、5：全くそう思わない（1 ポイント）の計 5 段階評価とする。

なお、2019 年度後期については設問 17 と 18 を統合し、新たに設問 18「授業内容・方法や授業環境（例：空調、照明、音響、板書・プロジェクター、教室内外の私語・騒音等）について改善点があれば挙げてください。また、この授業をよりよくするために教員はどのような配慮をすればよいと思いますか」とするとともに、設問 17 として「授業内容・方法や学生対応など、この授業で良かった点があれば挙げてください」を新設した。

3．授業評価アンケートの結果報告

（1）質問項目別にみる集計平均値（前後期とも通年科目を含む）

設問番号	質問項目	前期	後期
1	私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4.28	4.04
2	私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ（でいる）。	4.39	4.12
3	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.20	4.03
4	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.31	4.10
5	教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	4.46	4.29
6	教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。	4.25	4.09
7	教員の授業方法や使用した教材に創意工夫が感じられた。	4.26	4.07
8	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.33	4.14
9	教員は学生の質問や相談に適切に対応していた。	4.34	4.12
10	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.31	4.16
11	この授業は分かりやすかった。	4.21	4.06
12	この授業の進め方のペースは適切であった。	4.25	4.09
13	この授業はシラバスに沿って進められていた。	4.31	4.12
14	この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。	4.31	4.13
15	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.38	4.20
16	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.34	4.17

前期は全回答数 2,428 件で回答率は 76.1%、後期は全回答数 1,523 件で回答率は 64.3%という結果であった。前期と比べて後期の回答率が下がった原因としては、前後期とも 3 週間の実施期間を取ったものの、後期実施の第 3 週目には既に授業を終了していた科目が多くあったことが考えられる。次年度の後期については実施期間の再検討が必要である。

以下、各質問項目をカテゴリー別にみていく。（1）学生自身の自己評価（設問 1 ～ 4）については、前後期ともに全ての設問において 4 を上回っているものの、設問 4「私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ」と設問 3「私はこの授業の内容を十分に理解することができた」の数値の乖離が気になるところである。

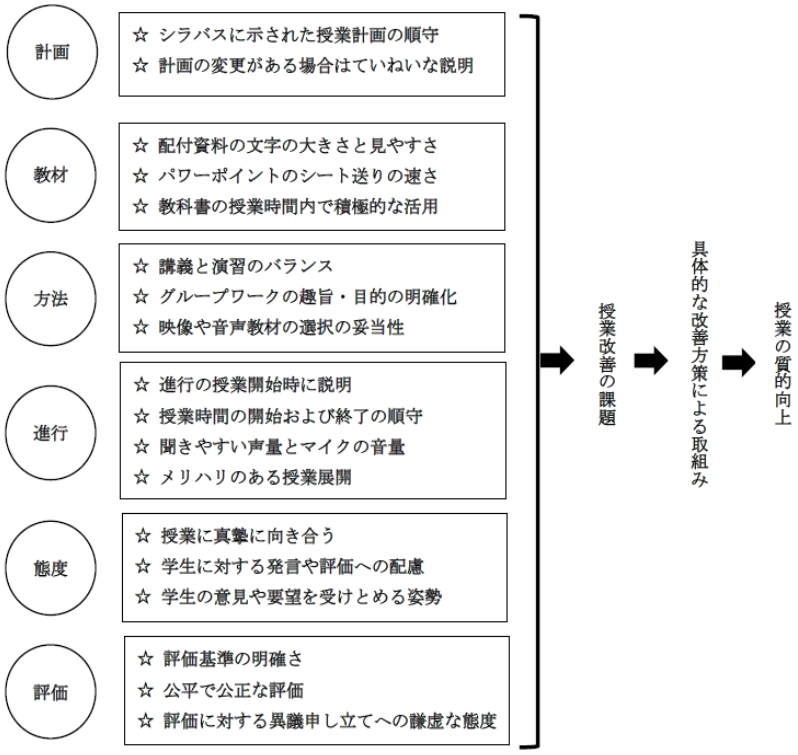
（2）授業担当者に対する評価（設問 5～10）では、設問 10 の総合評価において前期が 4.31、後期が 4.16 とあるように、比較的高い評価と言えるものの、設問 6「教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた」と設問 7「教員の授業方法や使用した教材に創意工夫が感じられた」のポイントが他と比べて若干低い。その都度、理解度を確かめながら授業を進めていく工夫、たとえば指名や授業後の確認テストやリアクションペーパーの実施、また ICT 機器の積極活用等が今後の改善対策として考えられるだろう。

（3）授業内容に対する評価（設問 11～16）では、設問 16 の総合評価を見ても分かる通り、こちらも比較的高い評価であると言える。他方、設問 11「この授業は分かりやすかった」では前期が 4.21、後期が 4.06 であり、こちらは設問 3 における学生自身の理解度の結果と正の相関にあると考えられることから、分かりやすい授業の工夫は喫緊の課題であると言えよう。

（2）授業改善に向けての今後の課題

今年度は設問項目を一新したこともあり、項目ごとの経年変化を追うことができなかった。今年度、新たな取り組みとして導入した「授業支援メンター制度」や次年度以降に実施を予定している、各教員・科目ごとの授業評価アンケートのフィードバック、さらには右図の PDCA の取り組みを通して、授業の更なる質的向上に取り組んでいく所存である。

本授業アンケートの結果について、ご意見・ご要望等あれば気軽に FD 委員までお寄せいただければ幸いである。



2019 年度　白梅学園大学大学院 授業評価アンケート結果

2019 年度 FD 委員会

本学では教育の質向上を目的とした点検評価活動の一環として、授業評価アンケートを 2002 年度から実施してまいりました。FD 委員会では昨今の大学院教育における質保証体制の更なる充実やアカウンタビリティの履行といった社会的要請を受け、本年度よりアンケート項目のみならず、実施方法や対象授業に至るまで、これまでの授業評価のあり方を抜本的に見直す作業に着手いたしました。

以下、本年度の授業評価アンケートの概要および分析結果についてご報告いたします。

１．授業評価の実施主体

白梅学園大学・短期大学　ＦＤ委員会

２．授業アンケート評価の実施方法

（１）授業アンケートの実施と結果分析

調査の実施および集計は白梅学園大学・短期大学教務課が行う。なお、結果分析については、FD 委員会が実施する。

（２）授業アンケートの実施方法

ア．実施回数および方法

年度内に 2 回（前期と後期)、ウェブ上（学生ポータルサイト）にて行う。なお、これまでアンケートは任意回答としてきたが、より多くの受講生の声を拾うべく、今年度より回答必須とした（ただし、無記名式は従前の通りである)。

イ．対象授業科目

「子ども学特別研究」を除く全科目について実施（但し、受講者数 5 名未満の科目は除外する)。

ウ．実施時期

実施期間は 3 週間、授業時間内に 10 分程度の時間をとって実施した。前後期の実施期間・回答率は以下の通りである。

	実施期間	回答率
前期	2019 年 7 月 8 日（月）～7 月 27 日（土）	75.4%
後期	2020 年 1 月 6 日（月）～1 月 25 日（土）	67.0%

エ．学生への周知

ポータルサイトおよび各学年のゼミナールにて用紙を配布して周知徹底した。

オ．授業評価の結果公開

大学・短大全体の授業評価結果（全科目の総合集計結果）のみを本学ＨＰ上にて公開する。個別集計結果についてはウェブ公開しない。なお、教員各自が担当する科目の集計結果については、集計終了後に各教員に開示した。

３．授業評価アンケートの質問項目（2019 年度版）

（１）学生自身の自己評価

設問１（学習目的）　私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。
設問２（学習態度）　私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ（でいる）。
設問３（内容理解）　私はこの授業の内容を十分に理解することができた。
設問４（総合評価）　私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。

（２）授業担当者に対する評価

設問５（熱意態度）　教員は熱意を持って授業に臨んでいた。
設問６（授業運営）　教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。
設問７（授業方法）　教員の授業方法や使用した教材に創意工夫が感じられた。
設問８（基本項目）　教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。
設問９（学生対応）　教員は学生の質問や相談に適切に対応していた。
設問 10（総合評価）　この授業の教員は総合的に評価して良かった。

（３）授業内容に対する評価

設問 11（授業難易度）この授業は分かりやすかった。
設問 12（授業進度）　この授業の進め方のペースは適切であった。
設問 13（シラバス）　この授業はシラバスに沿って進められていた。
設問 14（教科書等）　この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。
設問 15（授業内容）　この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。
設問 16（総合評価）　この授業は総合的に評価して良い授業であった。

（４）自由記述

設問 17（授業環境）　授業環境について改善点を挙げてください。（例：空調、照明、音響、黒板・プロジェクター等、教室内外の私語・騒音等）
設問 18（授業改善）　この授業をよりよくするために教員はどのような配慮をすればよいと思いますか。

カテゴリー（１）～（３）の回答選択肢は、１：そう思う（5 ポイント）、２：ややそう

思う（4 ポイント）、3：どちらとも言えない（3 ポイント）、4：あまりそう思わない（2 ポイント）、5：全くそう思わない（1 ポイント）の計 5 段階評価とする。

なお、2019 年度後期については設問 17 と 18 を統合し、新たに設問 18「授業内容・方法や授業環境（例：空調、照明、音響、板書・プロジェクター、教室内外の私語・騒音等）について改善点があれば挙げてください。また、この授業をよりよくするために教員はどのような配慮をすればよいと思いますか」とするとともに、設問 17 として「授業内容・方法や学生対応など、この授業で良かった点があれば挙げてください」を新設した。

3．授業評価アンケートの結果報告

（1）質問項目別にみる集計平均値（前後期とも通年科目を含む）

設問番号	質問項目	前期	後期
1	私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4.39	4.30
2	私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ（でいる）。	4.46	4.41
3	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.29	4.14
4	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.50	4.54
5	教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	4.82	4.62
6	教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。	4.77	4.46
7	教員の授業方法や使用した教材に創意工夫が感じられた。	4.59	4.32
8	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.75	4.59
9	教員は学生の質問や相談に適切に対応していた。	4.80	4.51
10	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.70	4.51
11	この授業は分かりやすかった。	4.43	4.41
12	この授業の進め方のペースは適切であった。	4.59	4.54
13	この授業はシラバスに沿って進められていた。	4.64	4.68
14	この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。	4.64	4.49
15	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.68	4.54
16	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.73	4.51

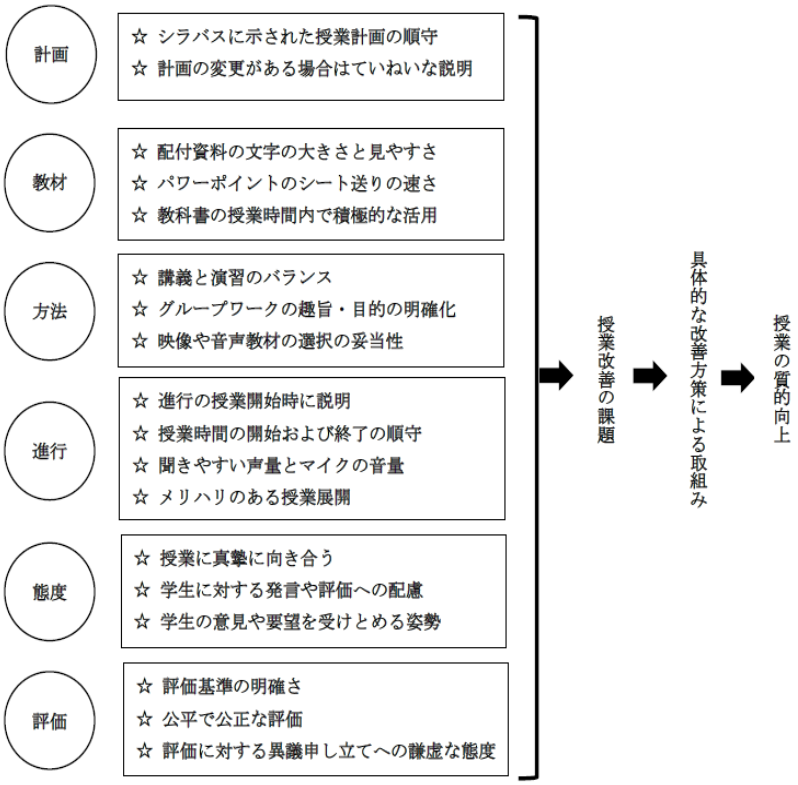
前期は全回答数 56 件で回答率は 75.4%、後期は全回答数 54 件で回答率は 67.0%という結果であった。前期と比べて後期の回答率が下がった原因としては、前後期とも 3 週間の実施期間を取ったものの、後期実施の第 3 週目には既に授業を終了していた科目が多くあったことが考えられる。次年度の後期については実施期間の再検討が必要である。

以下、各質問項目をカテゴリー別にみていく。（1）学生自身の自己評価（設問 1 ～ 4）については、前後期ともに高い自己評価結果となっており、大学院生の学習意欲の高さが伺える。他方、設問 4「私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ」と設問 3「私はこの授業の内容を十分に理解することができた」の数値の乖離は気になるところである。

（2）授業担当者に対する評価（設問 5～10）では、全般的に非常に高い数値となっている。個々の教員による学生の理解度を考慮した授業づくりの工夫、また少人数教育ならではの教員との距離の近さ（質問や相談のしやすさ）等が影響していると考えられる。次年度以降もこの水準を維持できるよう取り組んでいきたい。

（3）授業内容に対する評価（設問 11～16）では、設問 16 の総合評価を見ても分かる通り、こちらも比較的高い評価であると言える。他方、設問 11「この授業は分かりやすかった」では前期が 4.43、後期が 4.41 であり、こちらは設問 3 における学生自身の理解度の結果と正の相関にあると考えられることから、これまで以上に分かりやすい授業の工夫（ICT 機器の利用、リアクションペーパーによる理解度の逐次確認 etc.）は今後の課題であると言えよう。

（2）授業改善に向けての今後の課題

今年度は設問項目を一新したこともあり、項目ごとの経年変化を追うことができなかった。今年度、新たな取り組みとして導入した「授業支援メンター制度」や次年度以降に実施を予定している、各教員・科目ごとの授業評価アンケートのフィードバック、さらには右図の PDCA の取り組みを通して、授業の更なる質的向上に取り組んでいく所存である。

本授業アンケートの結果について、ご意見・ご要望等あれば気軽に FD 委員までお寄せいただければ幸いである。